

第 5 章 相手情報の設定

5.1 相手共通情報

5.1.1 remote delete

[機能]

相手ネットワークの削除

[入力形式]

remote delete <number>

[パラメタ]

<number>

削除する相手ネットワークを指定します。

- 相手定義番号
削除する相手ネットワークの通し番号を指定します。
- all
すべての相手ネットワークを削除する場合に指定します。

[説明]

相手ネットワークを削除します。

5.1.2 remote name

[機能]

相手ネットワーク名称の設定

[入力形式]

remote [<number>] name <network_name>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<network_name>

- 相手ネットワーク名
相手ネットワーク名を、0x21,0x23～0x7e の 8 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

相手ネットワーク名を設定します。

[注意]

既に同一名称の相手ネットワークが登録されている場合は、異常終了します。

[未設定時]

相手ネットワーク名を設定しないものとみなされます。

5.1.3 remote autodial

[機能]

自動ダイヤル可否の設定

[入力形式]

remote [<number>] autodial <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

自動的にダイヤルするかどうかを指定します。

- enable
送信すべきパケットが発生した場合に、自動ダイヤルを行います。
- disable
送信すべきパケットが発生しても、自動ダイヤルを行いません。

[説明]

指定した相手に対して、自動的にダイヤルするかどうかを設定します。

[注意]

“3.2.7 wan isdn autodial” で<mode>に disable を指定している場合は、自動ダイヤルを行えません。
自動ダイヤルを行う場合は、<mode>に enable を指定しておいてください。

[未設定時]

自動ダイヤルを行うものとみなされます。

```
remote <number> autodial enable
```

5.1.4 remote mtu

[機能]

送信パケット最大長 (MTU 値) の設定

[入力形式]

remote [<number>] mtu <mtu>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mtu>

- MTU 値
MTU 値を、200～1500 の 10 進数値で指定します。

[説明]

リモートに対して送信するパケットの MTU 値を設定します。

MTU 値を変更すると、このリモートに対して送信するパケットの最大長が変更されます。また、PPP ネゴシエーションにおいて相手 MRU 値、相手 MRRU 値が MTU 値まで小さくなることを許すようになります。

[未設定時]

MTU 値に 1500 を指定したものとみなされます。

```
remote <number> mtu 1500
```

5.2 アクセスポイント 情報

5.2.1 remote ap name

[機能]

アクセスポイントの名称の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] name <ap_name>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_name>

- アクセスポイント名
アクセスポイント名を、0x22(ダブルクォーテーション)を除く [0x21-0x7e] の範囲のコードで構成される ASCII 文字列で指定します。指定範囲は、1～8 文字です。

[説明]

アクセスポイント名を設定します。

[注意]

アクセスポイントの情報をすべて未設定時の値で使用する場合には必ずアクセスポイント名を設定してください。すべての値が未設定時値の場合にはアクセスポイントの情報は削除されます。

[未設定時]

アクセスポイント名を設定しないものとみなされます。

5.2.2 remote ap move

[機能]

アクセスポイントの優先順序の変更

[入力形式]

```
remote [<number>] ap move <ap_number> <new_ap_number>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- 対象アクセスポイント 定義番号
優先順序を変更するアクセスポイント 定義番号を指定します。

<new_ap_number>

- 移動先アクセスポイント 定義番号
対象アクセスポイントを移動させる先のアクセスポイント 定義番号を指定します。
対象アクセスポイントは、ここで指定したアクセスポイントの前に移動されます。

[説明]

アクセスポイントの順序を変更します。

5.2.3 remote ap delete

[機能]

アクセスポイントの削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap delete <ap_number>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

削除するアクセスポイント定義番号を指定します。

- アクセスポイント定義番号
削除するアクセスポイント定義番号を指定します。
- all
すべてアクセスポイント定義番号を削除する場合に指定します。

[説明]

アクセスポイントを削除します。

5.2.4 remote ap ip dns

[機能]

DNS サーバアドレスの設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ip dns <dns>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<dns>

- DNS サーバアドレス
アクセスポイントと接続するときに利用する DNS サーバのアドレスを指定します。
ここでの指定によって、以下のように動作します。

0.0.0.0 アドレスを自動取得するものとみなされます。

255.255.255.255

 DNS サーバを使用しないものとみなされます。

上記以外 設定したアドレスを、相手装置に通知します。

[説明]

指定したアクセスポイントと接続するときに利用する DNS サーバアドレスを設定します。
本コマンドによる設定情報は、以下の 2 つの場合に利用されます。

- ProxyDNS からの利用
ProxyDNS 機能と併用する場合、アクセスポイントと接続中のときは、<dns>で設定したアドレスに対して ProxyDNS から DNS 問い合わせを行います。本コマンドによる設定情報がない場合は、IPCP 機能によって相手ルータから DNS サーバアドレスを取得します。
- 通信相手への DNS サーバアドレス通知
接続先から IPCP 機能を用いて DNS サーバアドレス通知要求を受けた場合に、<dns>で設定した IP アドレスを通知します。本コマンドによる設定がない場合は通知しません。

[未設定時]

アドレスを自動取得するものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 ip dns 0.0.0.0
```


5.2.5 remote ap multiroute port add

[機能]

ポートルーティング情報の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] multiroute port add <port> <server_name>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<port>

- サービスポート番号
ポートルーティングの対象となるサービスポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数指定することはできません。

<server_name>

- サーバホスト名
ポートルーティングサービスを提供するサーバホスト名を、80 文字指定します。

[説明]

ポートルーティングの対象とするポート番号を設定します。
本コマンドを実行した場合、条件に合致するパケットが指定したアクセスポイントに送信されます。
ポートルーティング情報は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[未設定時]

ポートルーティング情報を定義しないものとみなされます。

5.2.6 remote ap multiroute port delete

[機能]

ポートルーティング情報の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] multiroute port delete <port>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<port>

削除するサービスポート番号を指定します。

- サービスポート番号
削除するサービスポート番号を指定します。
- all
すべてのサービスポート番号を削除する場合に指定します。

[説明]

ポートルーティング情報を削除します。

5.2.7 remote ap multiroute src

[機能]

ソースアドレスルーティング情報の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] multiroute src <src_addr> / <mask>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<src_addr>/<mask>

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
ソースルーティングの対象とする IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスクビット数と組み合わせることで、複数のソース IP アドレスを対象とすることができます。なお、マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
 - － IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)
 - － IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)

[説明]

ソースアドレスルーティングの対象とする IP アドレスを設定します。

[注意]

本コマンドを実行した場合、<src_addr>/<mask>に適合するソース IP アドレスを持つパケットのみがこのアクセスポイントに送信されます。

すべての接続先に対してソースアドレスルーティングを設定している場合、本装置のファームウェア更新や通信確認 (ping コマンド 実行) などは行えません。必ず 1 以上、ソースアドレスルーティングを行わない接続先を定義してください。

[未設定時]

ソースアドレスルーティング情報を定義しないものとみなされます。

5.2.8 remote ap multiroute src delete

[機能]

ソースアドレスルーティング情報の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] multiroute src delete
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号

相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。

省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号

相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。

省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

[説明]

ソースアドレスルーティング情報を削除します。

5.2.9 remote ap limit charge

[機能]

課金累計制限の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] limit charge <charge>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<charge>

- 課金累計上限
課金累計の上限金額を、0～999999 の 10 進数値で指定します。
0 を指定した場合は、上限を設定しません。

[説明]

指定したアクセスポイントに対する課金累計の上限値を設定します。
発信時に、アクセスポイントに対する課金累計が指定した上限値を超えていた場合は、このアクセスポイントに対する自動発信を行いません。次の優先度のアクセスポイントに対して処理を移します。

[未設定時]

課金累計の上限値を設定しないものとみなされます。

```
remote <number> ap <ap_number> limit charge 0
```

5.2.10 remote ap limit time

[機能]

接続時間累計制限の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] limit time <time>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<time>

- 接続時間累計上限
接続時間累計の上限時間を、0 秒～999 時間の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒)のいずれかを指定します。0 秒を指定した場合は、上限を設定しません。

[説明]

指定したアクセスポイントに対する接続時間累計の上限値を設定します。
発信時に、このアクセスポイントに対する接続時間累計が指定した上限値を超えていた場合は、このアクセスポイントに対する自動発信を行いません。次の優先度のアクセスポイントに対して処理を移します。

[未設定時]

接続時間累計の上限値を設定しないものとみなされます。

```
remote <number> ap <ap_number> limit time 0s
```

5.2.11 remote ap ppp auth type

[機能]

認証方法の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp auth type <authtype>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<authtype>

認証プロトコルのタイプを指定します。

- off
認証を要求しない場合に指定します。
- pap
PAP による認証を要求する場合に指定します。
- chap_md5
MD5-CHAP による認証を要求する場合に指定します。
- any
MD5-CHAP または PAP による認証を要求し、実際に利用する認証プロトコルはネゴシエーションによって決定する場合に指定します。

[説明]

接続時に要求する認証プロトコルのタイプを設定します。
ここでの設定は、着信し、かつ CLID 相手判定が行われた場合に有効となります。

[未設定時]

着信時の認証プロトコルに MD5-CHAP または PAP を用います。

```
remote <number> ap 0 called ppp auth type any
```

5.2.12 remote ap ppp auth send

[機能]

送信認証情報の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp auth send <id> <password> [encrypted]

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<id>

- 認証 ID
認証 ID を、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 64 文字以内の文字列を指定します。"delete"は指定できません。

<password>

- 認証パスワード
認証パスワードを、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 64 文字以内の文字列を指定します。
show コマンドで表示される暗号化された認証パスワード文字列を encrypted とともに指定することもできます。その場合、表示された文字列をそのまま正確に入力してください。文字列は 64 文字を超えていてもかまいません。
- 暗号化された認証パスワード
show コマンドで表示される暗号化された認証パスワードを encrypted と共に指定します。
show コマンドで表示される文字列をそのまま正確に指定してください。

encrypted

- 暗号化認証パスワード指定
<password>に暗号化された認証パスワードを設定する場合に指定します。

[説明]

指定したアクセスポイントに接続するときに送信する認証情報 (認証 ID およびパスワード) を設定します。

[注意]

認証 ID およびパスワードが設定されていない場合、接続相手からの認証要求を拒否します。
show コマンドでは、暗号化された認証パスワードが encrypted と共に表示されます。

[未設定時]

送信する認証情報を定義しないものとみなされます。

5.2.13 remote ap ppp auth send delete

[機能]

認証情報の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp auth send delete
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

[説明]

認証情報 (認証 ID およびパスワード) を削除します。

5.2.14 remote ap ppp auth receive

[機能]

受諾認証情報の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp auth receive <id> <password> [encrypted]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<id>

- 認証 ID
認証 ID を、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 64 文字以内の文字列を指定します。"delete"は指定できません。

<password>

- 認証パスワード
認証パスワードを、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 64 文字以内の文字列を指定します。
show コマンドで表示される暗号化された認証パスワードを encrypted と共に指定します。
show コマンドで表示される文字列をそのまま正確に指定してください。

encrypted

- 暗号化認証パスワード指定
<password>に暗号化された認証パスワードを設定する場合に指定します。

[説明]

認証プロトコル使用時に受諾する、認証情報 (認証 ID および認証パスワード) を設定します。

[注意]

show コマンドでは、暗号化された認証パスワードが encrypted と共に表示されます。

[未設定時]

受諾する認証情報を設定しないものとみなされます。

5.2.15 remote ap ppp auth receive delete

[機能]

受諾認証情報の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp auth receive delete
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

[説明]

認証プロトコル使用時に受諾する、認証情報 (認証 ID および認証パスワード) を削除します。

5.2.16 remote ap ppp mp use

[機能]

発信時の MP 利用の可否の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp mp use <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

MP を利用するかどうかを指定します。

- off
MP を利用しない場合に指定します。
- on
MP を利用する場合に指定します。

[説明]

発信時に MP を利用するかどうかを設定します。

着信時は、CLID 相手判定によって指定したアクセスポイントへの接続が決定された場合に、MP を利用するかどうかを設定します。

[未設定時]

MP を利用しないものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 ppp mp use off
```

5.2.17 remote ap ppp mp bap use

[機能]

発信時の BAP/BACP 利用の可否の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] ppp mp bap use <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

BAP/BACP を利用するかどうかを指定します。

- off
BAP/BACP を利用しない場合に指定します。
- on
BAP/BACP を利用する場合に指定します。

[説明]

MP を利用する場合に BAP/BACP を利用するかどうかを設定します。

着信時は、CLID 相手判定によってこのアクセスポイントへの接続が決定された場合に、BAP/BACP を利用するかどうかを設定します。

[未設定時]

BAP/BACP を利用しないものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 ppp mp bap use off
```

5.2.18 remote ap dial number

[機能]

アクセスポイントの電話番号の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] dial <count> number <dial_number> [<subaddress>]

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

ダイヤル定義番号として、以下のいずれかを指定します。

- 0
- 1
- 2

<dial_number>

- 相手電話番号
相手の電話番号を、0～9 の数字と、*、#、-、(、)、\ の文字で構成される 32 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

<subaddress>

- 相手サブアドレス
相手のサブアドレスを、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 19 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

アクセスポイントの電話番号を設定します。

[未設定時]

アクセスポイントの電話番号を設定しないものとみなされます。

5.2.19 remote ap dial speed

[機能]

アクセスポイントの通信速度の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] dial <count> speed <speed> [<carrier>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

ダイヤル定義番号として、以下のいずれかを指定します。

- 0
- 1
- 2

<speed>

通信速度、通信手順を指定します。

- 64K
同期 PPP 64Kbps の場合に指定します。
- PIAFS
PIAFS(32Kbps) 接続の場合に指定します。
- PIAFS64K
PIAFS(64Kbps) 接続の場合に指定します。

<carrier>

通信速度に "PIAFS64K" を指定した場合に通信事業者を指定します。省略した場合は、"docomo" を指定したものとみなされます。なお、通信速度に "PIAFS64K" 以外を指定した場合には、本パラメタを指定しないでください。

- docomo
NTT DoCoMo の PIAFS(64Kbps) 接続の場合に指定します。
- ddip
DDI Pocket の PIAFS(64Kbps) 接続の場合に指定します。

[説明]

アクセスポイントの通信速度および通信手順を設定します。

[未設定時]

通信速度に 64kbps を指定したものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 dial <count> speed 64K
```


5.2.20 remote ap dial delete

[機能]

アクセスポイントの電話番号および通信速度の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] dial delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

削除するダイヤル定義を指定します。

- ダイヤル定義番号
削除する電話番号のダイヤル定義番号を、0～2 の範囲で指定します。
- all
すべてのダイヤル定義を削除する場合に指定します。

[説明]

アクセスポイントの電話番号および通信速度を削除します。

[注意]

削除は、ダイヤル定義番号の単位で行われます。したがって、アクセスポイント電話番号 (“5.2.18 remote ap dial number” を参照) および通信速度 (“5.2.19 remote ap dial speed” を参照) の設定は同時に削除されます。

5.2.21 remote ap callback

[機能]

コールバック要求動作の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] callback <mode> [<kind> <time> [<callback_number>
[<subaddress>]]]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- enable
発信時にコールバックを要求します。
- disable
発信時にコールバックを要求しません。

<kind>

- clid
コールバック方式に「無課金方式」を指定します。
- cbcp
コールバック方式に「CBCP 方式」を指定します。

<time>

- コールバック待ち時間
コールバック要求が受理された後、相手からのコールバック応答着信を待つ時間を、0 秒～60 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

<callback_number>

- コールバック電話番号
コールバック要求時に相手に伝える自側の電話番号を、0～9 の数字と、*、#、-、(、)、\ の文字で構成される 32 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

<subaddress>

- コールバックサブアドレス
コールバック要求時に相手に伝える自側の電話番号に対するサブアドレスを、0x21, 0x23～0x7e の文字で構成される 19 桁以内の ASCII 文字列で指定します。
-

[説明]

このアクセスポイントに対して発信する際のコールバック要求動作を設定します。

<callback_number> および <subaddress> の設定はコールバック方式に「cbcp」を設定し、相手システムがコールバック要求側からの電話番号指定を許可した場合に有効です。

[未設定時]

発信時にコールバック要求しないものとみなされます。

```
remote <number> ap <ap_number> callback disable
```

5.2.22 remote ap called accept

[機能]

アクセスポイントからの着信許可の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap <ap_number> called accept <incoming>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<incoming>

着信を許可するかどうかを指定します。

- enable
着信を許可する場合に指定します。
- disable
着信を許可しない場合に指定します。

[説明]

指定したアクセスポイントから送られてきたと判断されたデータに対して、着信を許可するかどうかを設定します。

[未設定時]

着信を許可するものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 called accept enable
```

5.2.23 remote ap called clid

[機能]

CLID 相手判断利用の可否の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap <ap_number> called clid <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

着信時に CLID 相手判定をするかどうかを指定します。

- enable
着信時に CLID 相手判定をする場合に指定します。
- disable
着信時に CLID 相手判定をしない場合に指定します。

[説明]

着信時に、相手電話番号を判定するかどうかを設定します。相手電話番号を判定することを、CLID 相手判定と呼びます。

- 以下の定義の相手電話番号を利用して、着信時に相手を判定します。
 - 1) “5.2.24 remote ap called number” による定義が存在する場合は、その定義の相手電話番号。
 - 2) 1) の定義が存在せず、“5.2.18 remote ap dial number” による定義が存在する場合は、その定義の相手電話番号。
- 本コマンドの<mode>で enable を指定した場合に上記の番号が発信者番号として通知されたときは、指定したアクセスポイントから着信したものとみなされます。

[未設定時]

着信時に、CLID 相手判定を行うものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 called clid enable
```

5.2.24 remote ap called number

[機能]

CLID の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] called number <called_number> [<subaddress>]

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<called_number>

相手電話番号

- 相手電話番号
相手の電話番号を、0～9 の数字と、*、#、-、(、)、\ の文字で構成される 32 桁以内の ASCII 文字列で指定します。
- any
着信時の CLID 相手判定に、“5.2.18 remote ap dial number”で設定した相手電話番号を使用する場合に指定します。

<subaddress>

- 相手サブアドレス
相手のサブアドレスを、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 19 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

CLID 相手判定で、チェックする番号を設定します。

[未設定時]

着信時の CLID 相手判定に、“5.2.18 remote ap dial number”で設定された相手電話番号を使用します。

```
remote <number> ap 0 called number any
```

5.2.25 remote ap called callback

[機能]

コールバック応答動作の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] called callback <mode> [<kind> <time> [<callback_number>
[<subaddress>]]]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- enable
着信時にコールバックを行います。
 - disable
着信時にコールバックを行いません。
- 以下のパラメタは、<mode>が disable の場合は省略できます。

<kind>

- clid
コールバック方式として「無課金方式」を指定します。
- cbcp
コールバック方式として「CBCP 方式」を指定します。

<time>

- コールバック待ち時間
コールバック要求着信を受理した後、相手にコールバック応答発信を行うまでの待ち時間を、0 秒～60 秒の範囲で指定します。
単位は、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

<callback_number>

- コールバック電話番号
コールバック要求着信を受理した後、コールバック応答発信で利用する電話番号を、0～9 の 10 進数値と、*、#、-、(、)、\ の区切り文字で構成される 32 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

<subaddress>

- コールバックサブアドレス
コールバック応答発信で利用する電話番号に対するサブアドレスを、0x21,0x23～0x7e の文字で構成される 19 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

このアクセスポイントに着信を受けた場合のコールバック応答動作の設定を行います。
この設定は発信者番号 (CLID) で相手識別が行われた場合に利用します。
コールバック方式に「cbcp」を指定し、<callback_number> の指定を行なった場合には、コールバック要求側からの電話番号指定を許可しません。

[未設定時]

着信時にコールバック応答動作を行わないものとみなされます。

```
remote <number> ap <ap_number> called callback disable
```


5.2.26 remote ap idle

[機能]

無通信監視タイマの設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] idle <time>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<time>

- 無通信監視時間
無通信監視時間を、0 秒～3600 秒の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。0 秒を指定した場合は、監視を行いません。

[説明]

指定したアクセスポイントと接続したときの無通信監視時間を設定します。

[未設定時]

監視を行わないものとみなされます。

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] idle 0d
```

5.2.27 remote ap step

[機能]

平日昼間時間帯の課金単位時間の設定

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] step <time>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<time>

- 課金単位時間
平日昼間時間帯 (月～金曜日 8:00～19:00) の課金単位時間 (秒) の 10 倍の値を、0～36000 の 10 進数値で指定します (例: 180 秒=1800、16.5 秒=165)。0 を指定した場合は、課金単位に応じた接続保持を行いません。

[説明]

ISDN 回線を利用して通信するときの平日昼間時間帯 (月～金曜日 08:00～19:00) の課金単位時間を設定します。課金単位時間を設定すると、無通信の場合でも接続時間が設定値の整数倍になるまで接続を保持します。

[注意]

課金単位時間を設定する場合、本装置の時刻を正しく設定してください。
祝日の料金には対応していません。

[未設定時]

課金単位時間を設定しないものとみなされます。

5.2.28 remote ap step2

[機能]

夜間・休日時間帯の課金単位時間の設定

[注意]

課金単位時間を設定する場合、本装置の時刻を正しく設定してください。

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] step2 <time2>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<time2>

- 課金単位時間
夜間・休日時間帯 (月～金曜日 19:00～23:00)、土 / 日曜日 (08:00～23:00) の課金単位時間 (秒) の 10 倍の値を、0～36000 の 10 進数値で指定します (例: 180 秒=1800、16.5 秒=165)。

[説明]

ISDN 回線を利用して通信するときの夜間・休日時間帯 (月～金曜日 19:00～23:00、土 / 日曜日 08:00～23:00) の課金単位時間を設定します。課金単位時間を設定すると、無通信の場合でも接続時間が設定値の整数倍になるまで接続を保持します。

[注意]

この設定は、"5.2.27 remote ap step"を設定した場合にのみ有効です。祝日の料金には対応していません。

[未設定時]

課金単位時間を設定していないものとみなされ、"remote ap step"で設定した値が使用されます。

5.2.29 remote ap step3

[機能]

深夜時間帯の課金単位時間の設定

[注意]

課金単位時間を設定する場合、本装置の時刻を正しく設定してください。

[入力形式]

remote [<number>] ap [<ap_number>] step3 <time3>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<time3>

- 課金単位時間
深夜時間帯 (全日 23:00～08:00) の課金単位時間 (秒) の 10 倍の値を、0～36000 の 10 進数値で指定します (例: 180 秒=1800、16.5 秒=165)。

[説明]

ISDN 回線を利用して通信するときの深夜時間帯 (全日 23:00～08:00) の課金単位時間を設定します。課金単位時間を設定すると、無通信の場合でも接続時間が設定値の整数倍になるまで接続を保持します。

[注意]

この設定は、"5.2.27 remote ap step"を設定した場合にのみ有効です。祝日の料金には対応していません。

[未設定時]

課金単位時間を設定していないものとみなされ、"5.2.28 remote ap step2"で設定した値が使用されます。この設定も無い場合には、"5.2.27 remote ap step"で設定した値が使用されます。

5.2.30 remote ap keep

[機能]

テレホーダイ (回線接続保持) 機能の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ap [<ap_number>] keep <keep>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<ap_number>

- アクセスポイント定義番号
相手ネットワーク内のアクセスポイントの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<keep>

回線接続保持の方式を設定します。

- on
回線接続を保持します。
- off
回線接続を保持しません。

[説明]

回線接続保持の方式を設定します。

"on"の時には回線接続保持の方式として、テレホーダイ機能による制御を行います。

[未設定時]

回線接続保持機能を使用しないものとみなされます。

```
remote <number> ap 0 keep off
```

5.3 PPP 関連情報

5.3.1 remote ppp compress (オプション)

[機能]

データ圧縮機能の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp compress <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- off
データ圧縮機能を使用しない場合に指定します。
- on
データ圧縮機能を使用する場合に指定します。

[説明]

データ圧縮機能を使用するかどうか設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

MP を使用する場合、受信順序制御 (“5.3.7 remote ppp mp order” を参照) を有効にしてください。MP を使用し、かつ受信順序制御を使用しないと定義している場合、ヒストリ機能 (高圧縮のための機能) を使用できません。

[未設定時]

データ圧縮機能を使用しないものとみなされます。

```
remote <number> ppp compress off
```

5.3.2 remote ppp mp start

[機能]

MP 利用時における初期接続リンク数の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ppp mp start <link>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<link>

- MP 利用時の初期接続リンク数
MP 利用時の初期接続リンク数を指定します。

[説明]

MP 利用時の初期接続リンク数を設定します。

MP 利用時に自装置から発信する場合、最初から接続を試みるリンク数を設定します。なお、発信に失敗した場合、再試行は行いません。

[未設定時]

初期接続リンク数として 1 を指定したものとみなされます。

```
remote <number> ppp mp start 1
```

5.3.3 remote ppp mp resource analog

[機能]

アナログ発着信時の縮退動作の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ppp mp resource analog <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号

相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- on

アナログ発着信時に縮退動作を行います。

- off

アナログ発着信時に縮退動作を行いません。

[説明]

MP 接続時に、アナログ発着信による縮退動作を行うかどうかを設定します。

[注意]

着信において縮退を行う場合には、「通信中着信通知」の契約が必要です。

[未設定時]

アナログ発着信時に縮退動作を行わないものとみなされます。

```
remote <number> ppp mp resource analog off
```


5.3.4 remote ppp mp traffic use

[機能]

自動チャネル数制御の可否の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp mp traffic use <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- on
スループット BOD の機能を使用します。
- off
スループット BOD の機能を使用しません。

[説明]

スループット BOD 機能を使用するかどうかを設定します。

[未設定時]

スループット BOD 機能を使用しないとみなされます。

```
remote <number> ppp mp traffic use off
```

5.3.5 remote ppp mp traffic increase

[機能]

リンク増加閾値の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp mp traffic increase <traffic> <time>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<traffic>

- 回線増加閾値
単位時間当たりにおけるチャネル利用率を、0～100 の 10 進数値で指定します。
以下に、回線増加閾値の計算式を示します。
$$\text{チャネル利用率 (\%)} = \text{転送バイト量} \div \text{転送可能バイト数} \times 100$$

<time>

- 増加猶予時間
トラフィックが回線増加閾値を超え続けた場合に、発信するまでの猶予時間を 0 秒～3600 秒の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

[説明]

スループット BOD 機能使用時におけるリンク増加閾値を設定します。
スループット BOD 機能を使用する場合は、本コマンドを必ず設定してください。

[注意]

指定した増加猶予時間の間、チャネル利用率が回線増加閾値を超え続けた場合にチャネル増加のための発信が行われます。

[未設定時]

回線増加閾値および猶予時間を設定しないものとみなされます。

5.3.6 remote ppp mp traffic decrease

[機能]

リンク減少閾値の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp mp traffic decrease <traffic> <time>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<traffic>

- 回線減少閾値
単位時間当たりにおけるチャネル利用率を、0～100 の 10 進数値で指定します。
以下に、回線減少閾値の計算式を示します。
$$\text{チャネル利用率 (\%)} = \text{転送バイト量} \div \text{転送可能バイト数} \times 100$$

<time>

- 減少猶予時間
トラフィックが回線減少閾値を超え続けた場合に、切断するまでの猶予時間を 0 秒～3600 秒の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

[説明]

スループット BOD 利用時におけるリンク減少閾値を設定します。
スループット BOD 機能を使用する場合は、本コマンドを必ず設定してください。

[注意]

設定された減少猶予時間の間、チャネル利用率が回線減少閾値を下回り続けた場合にチャネル減少が行われます。

[未設定時]

回線減少閾値および猶予時間を設定しないものとみなされます。

5.3.7 remote ppp mp order

[機能]

受信パケット 順序制御の有無の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp mp order <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- off
順序制御をしない場合に指定します。
- on
順序制御をする場合に指定します。

[説明]

MP 受信パケットの順序制御を行うかどうか設定します。

[注意]

以下に、MP 受信パケットの順序制御が無効になっていると動作に影響が出る機能を示します。

- ブリッジ機能 (オプション)
順序に依存するプロトコルをブリッジによって通信する場合、通信が停止することがあります。
- VJ ヘッダ圧縮機能
設定にかかわらず、常に VJ ヘッダ圧縮を使用しません。
- データ圧縮機能 (オプション)
LZS アルゴリズムで、ヒストリ機能 (高効率圧縮の機能) を使用しません。

[未設定時]

MP 受信パケットの順序制御をしないものとみなされます。

remote <number> ppp mp order off

5.3.8 remote ppp ipcp vjcomp

[機能]

VJ-Compression の利用の有無の設定

[入力形式]

remote [<number>] ppp ipcp vjcomp <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- enable
VJ ヘッダ圧縮を使用する場合に指定します。
- disable
VJ ヘッダ圧縮を使用しない場合に指定します。

[説明]

VJ ヘッダ圧縮機能 (VJCOMP) を使用するかどうかを設定します。VJ ヘッダ圧縮機能は、RFC1144 に準拠しています。

[注意]

MP を使用する場合は、“5.3.7 remote ppp mp order” の<mode>に on を指定して、受信順序制御を使用してください。

MP を使用するにもかかわらず受信順序制御を使用しないと定義している場合、VJ ヘッダ圧縮機能は無条件に無効となります。

[未設定時]

VJ ヘッダ圧縮機能を使用するものとみなされます。

```
remote <number> ppp ipcp vjcomp enable
```

5.4 IP 関連情報

5.4.1 remote ip address local

[機能]

自側 IP アドレスの設定

[入力形式]

remote [<number>] ip address local <address>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>

- 自側 IP アドレス
相手ネットワークでの自側 IP アドレスを指定します。
0.0.0.0 を指定した場合は、設定を削除します。

[説明]

相手ネットワークでの自側 IP アドレスを設定します。

[未設定時]

IP アドレスなし (unnumbered) として動作します。

5.4.2 remote ip address remote

[機能]

相手側 IP アドレスの設定

[入力形式]

remote [<number>] ip address remote <address>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>

- 相手側 IP アドレス
相手ネットワークでの相手側 IP アドレスを指定します。
0.0.0.0 を指定した場合は、設定を削除します。

[説明]

相手ネットワークでの相手側 IP アドレスを設定します。

[未設定時]

相手装置のアドレスが任意のアドレスであるものとして扱います。相手装置にアドレスがない場合、IP アドレスを割り当てません。

5.4.3 remote ip route add

[機能]

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip route add <address> /<mask> [<metric>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。
マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。以下に、有効な記述形式を示します。
 - － IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - － IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
宛先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<metric>

- RIP メトリック値
このスタティックルーティング情報を RIP で広報する場合のメトリック値を、1～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。RIP 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
 - － RIP 広報メトリック値=出力インタフェースの設定メトリック値+1+<metric>

[説明]

相手ネットワークに対して、IPv4 スタティックルーティング (静的経路) を設定します。
IPv4 スタティックルーティング情報は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[注意]

<address>/<mask>がまったく同じ宛先に対し、1 つのスタティックルーティング情報が設定できます。

[未設定時]

IPv4 スタティックルーティング情報を設定しないものとみなされます。

5.4.4 remote ip route modify

[機能]

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の修正

[入力形式]

```
remote [<number>] ip route modify <old_address>/<old_mask> <new_address>/<new_mask>  
[<new_metric>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<old_address>/<old_mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
修正前の宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
修正前の宛先ネットワークにデフォルトルートを設定している場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<new_address>/<new_mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
新しい宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。以下に、有効な記述形式を示します。
 - IPv4 アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.0/24)
 - IPv4 アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.0/255.255.255.0)
- default
新しい宛先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<new_metric>

- 新しいメトリック値
新しいメトリック値を、1～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、1 を指定したものとみなされます。

[説明]

IPv4 スタティックルーティング情報を修正します。

5.4.5 remote ip route delete

[機能]

IPv4 スタティックルーティング情報 (静的経路情報) の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ip route delete <address> / <mask>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<address>/<mask>

- IPv4 アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
削除する宛先ネットワークを IPv4 アドレスとマスクビット数の組み合わせで指定します。
- default
デフォルトルートを削除する場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。
- all
すべてのスタティックルーティングを削除する場合に指定します。

[説明]

IPv4 スタティックルーティング情報を削除します。

5.4.6 remote ip rip

[機能]

ダイナミックルーティング情報 (RIP) の設定

[入力形式]

remote [<number>] ip rip <send> <receive> <metric> [<ignore> [<password>]]

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<send>

RIP の送信について指定します。

- v1
RIPv1(Unicast または Broadcast) を送信します。自側 IP アドレスが設定されている場合は Unicast で送信します。設定されていない場合 (unnumbered) は Broadcast で送信します。
- v2
RIPv2(Unicast または Broadcast) を送信します。自側 IP アドレスが設定されている場合は Unicast で送信します。設定されていない場合 (unnumbered) は Broadcast で送信します。
- off
RIP を送信しません。

<receive>

RIP の受信について指定します。

- v1
RIPv1 を受信します。
- v2
RIPv1, RIPv2 を受信します。
- off
RIP を受信しません。

<metric>

- 加算メトリック値
RIP 情報の加算メトリック値を、0～16 の 10 進数値で指定します。
RIP 広報メトリック値は、以下の計算式で決定されます。
ー $\text{RIP 広報メトリック値} = \text{RIP 受信パケットのメトリック値} + 1 + \text{<metric>}$

<ignore>

自装置に<password>を設定していないときに、パスワード付きの RIPv2 パケットを受信したときの破棄の動作を指定します。
省略した場合は、off を指定したものとみなされます。

- on
受信した RIPv2 パケットを破棄します。
- off
受信した RIPv2 パケットを破棄しません。

<password>

- RIPv2 パスワード

<send>または<receive>に v2 を指定した場合のパスワードを、0x21,0x23～0x7e のコードで構成される 16 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

省略した場合は、パスワードなしとみなされます。

[説明]

相手ネットワークに、IPv4 ダイナミックルーティング情報 (RIP) を設定します。ダイナミックルーティングとはルータ間でルーティング情報をやりとりすることで、その都度最適なルートを選択してデータ通信を行う方法です。

[注意]

ISDN またはフレームリレー (従量課金) の場合、RIP 情報を送信すると、思わぬ課金 (定期発信または長時間接続) が発生します。

"remote mtu"で MTU 値を 576 よりも小さい値に設定すると、RIPv1(Broadcast), RIPv2(Broadcast) のパケットを送信しない場合があります。MTU 値は 576 以上を設定してください。

[未設定時]

IPv4 ダイナミックルーティング (RIP) を使用しないものとみなされます。

```
remote <number> ip rip off off 0 off
```

5.4.7 remote ip nat mode

[機能]

アドレス変換の設定

[入力形式]

remote [<number>] ip nat mode <mode> [<address> <addr_number> [<time>]]

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

アドレス変換 (NAT) を使用するかどうかを設定します。

- off
NAT を使用しません。
- nat
NAT を使用します。
- multi
マルチ NAT を使用します。

<address>

- 先頭グローバル IP アドレス
動的変換に使用するグローバル IP アドレスの先頭アドレスを指定します。
- any
グローバル IP アドレスの先頭アドレスとして IPCP ネゴシエーションの結果を使用します。

<addr_number>

- グローバル IP アドレスの個数
動的変換に使用するグローバル IP アドレスの個数を、1～16 の 10 進数値で指定します。

<time>

- 割当時間
割り当てられた変換テーブルを解放するための無通信監視時間を、0 秒～86400 秒 (1 日) の範囲で指定します。
単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。0 秒を指定した場合は、変換テーブル解放のための監視を行いません。
省略した場合は、5 分を指定したものとみなされます。

[説明]

相手ネットワークに対するアドレス変換 (NAT) の動作を設定します。

[未設定時]

アドレス変換は使用しないものとみなされます。

```
remote <number> ip nat mode off
```

5.4.8 remote ip nat static

[機能]

静的アドレス変換の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip nat static <count> <private_addr> <private_port>  
<global_addr> <global_port> [<protocol>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 静的アドレス変換定義番号
静的アドレス変換定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

<private_addr>

- プライベート IP アドレス
静的アドレス変換の対象となるプライベート側の IP アドレスを指定します。

<private_port>

- プライベートポート番号
静的アドレス変換の対象となるプライベート側のポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。
グローバルポート番号に複数ポート番号を指定した場合には、変換後の複数ポートの先頭ポート番号を指定します。
- any すべてのプライベートポート番号に対して有効な設定となります。

<global_addr>

- グローバル IP アドレス
静的アドレス変換の対象となるグローバル側の IP アドレスを指定します。
- any すべてのグローバル IP アドレスに対して有効な設定となります。

<global_port>

- グローバルポート番号
静的アドレス変換の対象となるグローバル側のポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。
複数個のアドレスを設定する場合には 1000-1200 のようにハイフンで結んで指定します。なお、ポート番号の範囲指定は一組のみ指定可能です。
- any
すべてのグローバルポート番号に対して有効な設定となります。

<protocol>

- プロトコル番号
静的アドレス変換の対象となるプロトコル番号を指定します。
省略した場合は、any を指定したものとみなされます。
- any
すべてのプロトコル番号に対して有効な設定となります。

[説明]

相手ネットワークに対する静的アドレス変換を設定します。

静的アドレス変換の対象となるパケットは、プロトコル番号<protocol>のプライベート側の IP アドレス <private_addr> とポート番号 <private_port>、グローバル側の IP アドレス<global_addr>とポート番号 <global_port>の指定内容により交換されます。

静的アドレス変換は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[未設定時]

静的アドレス変換は設定されません。

5.4.9 remote ip nat static delete

[機能]

静的アドレス変換の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ip nat static delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 静的アドレス変換定義番号
静的アドレス変換定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。
- all
すべての静的アドレス変換定義番号を削除対象とします。

[説明]

指定した静的アドレス変換を削除します。

5.4.10 remote ip nat rule

[機能]

アドレス変換ルールの設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip nat rule <count> ftp <server_addr>
[<server_start_port>]-[<server_end_port>] [<check>]
remote [<number>] ip nat rule <count> ftp <server_addr> <server_port> [<check>]
remote [<number>] ip nat rule <count> irc <server_addr>
[<server_start_port>]-[<server_end_port>]
remote [<number>] ip nat rule <count> irc <server_addr> <server_port>
remote [<number>] ip nat rule <count> dns <server_addr>
[<server_start_port>]-[<server_end_port>] [<check>]
remote [<number>] ip nat rule <count> dns <server_addr> <server_port> [<check>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 変換ルール番号
変換ルール番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

ftp, irc, dns

変換ルールの対象となるアプリケーションを指定します。

<server_addr>

- IP アドレス
NAT に割り当てたグローバルアドレス以外のアドレスを指定します。ここで指定したアドレスを変換ルールの対象とします。
- any
すべての IP アドレスを変換ルールの対象とします。
any を指定した場合は、グローバル側とプライベート側の両方のアプリケーションサーバに対応します。
- global
NAT に割り当てたグローバルアドレス以外のすべてのアドレスを変換ルールの対象とします。
global を指定した場合には、グローバル側のアプリケーションサーバに対応します。
- local
NAT に割り当てたグローバルアドレスを変換ルールの対象とします。local を指定した場合には、プライベート側のアプリケーションサーバに対応します。
- off
指定したアプリケーションに対する変換ルールを無効にします。

<server_start_port>

アプリケーションサーバで待ち受けるポートの範囲指定の開始番号を示します。

<server_end_port>

アプリケーションサーバで待ち受けるポートの範囲指定の終了番号を示します。

<server_port>

アプリケーションサーバで待ち受けるポート番号を示します。

<check>

- on

アプリケーションに ftp を指定した場合、ftp サーバのデータ転送用 IP アドレス及びポート番号のチェックを行います。

アプリケーションに dns を指定した場合、グローバル側にサーバが存在するときのみ有効となります。DNS の応答の UDP パケットのソース IP アドレス及びソースポート番号が問い合わせの UDP パケットのディスティネーション IP アドレス及びディスティネーションポート番号と同一かどうかチェックします。

省略した場合は、on を指定したものとみなされます。

- off

アプリケーションに ftp を指定した場合、ftp サーバのデータ転送用 IP アドレス及びポート番号のチェックを行いません。

アプリケーションに dns を指定した場合、IP アドレス及びポート番号のチェックを行いません。

[説明]

相手ネットワークに対するアドレス変換ルールを設定します。

指定 IP アドレス、指定ポート番号で動作する指定アプリケーションに対応するサーバに対するアドレス変換の特殊対応の設定を行います。

アドレス変換ルールは、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[未設定時]

アドレス変換ルールは設定されません。

5.4.11 remote ip nat rule delete

[機能]

アドレス変換ルールの削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ip nat rule delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 変換ルール番号
削除する変換ルール番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。
- all
すべての変換ルールを削除対象とします。

[説明]

指定したアドレス変換ルートを削除します。

5.4.12 remote ip filter

[機能]

IP フィルタの設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip filter <count> <action> <src_addr>/<mask> <src_port> <dst_addr>/<mask>  
<dst_port> <protocol> <tcpconnect> [<tos>]
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- フィルタリング定義番号
フィルタリングの優先度を表す番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。指定した値は、順番にソートされてリナンバリングされます。また、同じ値を持つフィルタリング定義が既に存在する場合は、既存の定義を変更します。

<action>

フィルタリング対象に該当するパケットを透過するかどうかを設定します。

- pass
該当するパケットを透過します。
- reject
該当するパケットを遮断します。
- restrict
該当するパケットを、回線が接続されていれば透過し、切断されていれば遮断します。

<src_addr>/<mask>

フィルタリング対象とする送信元 IP アドレスとマスクビット数を指定します。

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
フィルタリング対象とする送信元 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)
 - IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)
- any
すべての送信元 IP アドレスをフィルタリング対象とする場合に指定します。0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0)を指定するのと同じ意味になります。

<src_port>

フィルタリング対象とする送信元ポート番号を指定します。

- ポート番号

フィルタリング対象とする送信元ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように "-"(ハイフン) を使用して指定します。

ポート番号は、","(カンマ) および "-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。

以下に、有効な記述形式を示します。

- 1～65535 の 10 進数値 (例: 65535 = 65535 ポート)
- ポート番号-ポート番号 (例: 32-640 = 32 から 640 までのポート)
- ポート番号- (例: 1- = 1 から 65535 までのポート)
- -ポート番号 (例: -1000 = 1 から 1000 までのポート)
- ポート番号, ポート番号, … (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降のポート)

- any

すべての送信元ポート番号をフィルタリング対象とする場合に指定します。

<dst_addr>/<mask>

フィルタリング対象とする宛先 IP アドレスとマスクビット数を指定します。

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)

フィルタリング対象とする宛先 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。

記述形式は、<src_addr>/<mask>と同様です。

- any

すべての宛先 IP アドレスをフィルタリング対象とする場合に指定します。0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<dst_port>

フィルタリング対象とする宛先ポート番号を指定します。

- ポート番号

フィルタリング対象とする宛先ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。

記述形式は、<src_port>と同様です。

- any

すべての宛先ポート番号をフィルタリング対象とする場合に指定します。

<protocol>

フィルタリング対象とするプロトコル番号を指定します。

- プロトコル番号

フィルタリング対象とするプロトコル番号を、0～255 の 10 進数値で指定します (例: ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。

0 を指定した場合は、すべてのプロトコルをフィルタリング対象とします。

<tcpconnect>

- yes

TCP プロトコルでコネクション接続要求をフィルタリング対象に含めます。

- no

TCP プロトコルでコネクション接続要求をフィルタリング対象に含めません。

<tos> (オプション)

フィルタリング対象とする TOS 値を指定します。
省略した場合は、any を指定したものとみなされます。

- TOS 値

フィルタリング対象とする TOS 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。複数の TOS 値を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「0-ff」のように"-"(ハイフン) を使用して指定します。

TOS 値は、","(カンマ) および"-"(ハイフン) を使用して 10 個まで指定できます。

以下に、有効な記述形式を示します。

- 00～ff の 16 進数値 (例: ff = ff の TOS 値)
- TOS 値-TOS 値 (例: 32-64 = 32 から 64 までの TOS 値)
- TOS 値- (例: 80- = 80 から ff までの TOS 値)
- -TOS 値 (例: -7f = 0 から 7f までの TOS 値)
- TOS 値,TOS 値,... (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降の TOS 値)

- any

すべての TOS 値をフィルタリング対象とする場合に指定します。

[説明]

相手ネットワークに対する IP フィルタを設定します。

IP フィルタは、指定したアドレス、ポート番号、プロトコル、TOS 値と一致するパケットを透過あるいは遮断します。設定した優先度順に一致するか調べ、一致した時点でフィルタリングされ、それ以降の設定は参照されません。

IP フィルタは、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[未設定時]

IP フィルタを設定しないものとみなされ、すべてのパケットが透過します。

5.4.13 remote ip filter move

[機能]

IP フィルタの優先順序の変更

[入力形式]

```
remote [<number>] ip filter move <count> <new_count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 対象フィルタリング定義番号
優先順序を変更するフィルタリング定義の番号を指定します。

<new_count>

- 移動先フィルタリング定義番号
<count>に対する新しい順序を、0～31 の 10 進数値で指定します。
既にこの定義番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

[説明]

IP フィルタの優先順序を変更します。

5.4.14 remote ip filter delete

[機能]

IP フィルタの削除

[入力形式]

remote [<number>] ip filter delete <count>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

削除するフィルタリングを指定します。

- フィルタリング定義番号
削除するフィルタリングの定義番号を指定します。
- all
すべてのフィルタリングを削除する場合に指定します。

[説明]

IP フィルタを削除します。

5.4.15 remote ip tos (オプション)

[機能]

TOS 値書き換え条件の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip tos <count> <src_addr>/<mask> <src_port> <dst_addr>/<mask>
<dst_port> <protocol> <tos> <new_tos>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- TOS 値書き換え定義番号
TOS 値書き換え条件の優先度を表す定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。
指定した値は、設定完了時に順方向にソートされてリナンバリングされます。また、指定した定義番号と同じ値を持つ TOS 値書き換え定義が既に存在する場合は、既存定義の値を変更します。

<src_addr>/<mask>

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
TOS 値書き換え対象となる送信元 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - － IP アドレス/マスクビット数 (例: 192.168.1.1/24)
 - － IP アドレス/マスク値 (例: 192.168.1.1/255.255.255.0)
- any
すべての送信元 IP アドレスを TOS 値書き換えの対象とする場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<src_port>

TOS 値書き換え対象となる送信元ポート番号を指定します。

- ポート番号
TOS 値書き換え対象となる送信元ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように "-"(ハイフン) を使用して指定します。
ポート番号は、","(カンマ) および "-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port>合わせて 10 個まで指定できます。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - － 1～65535 の 10 進数値 (例: 65535 = 65535 ポート)
 - － ポート番号-ポート番号 (例: 32-640 = 32 から 640 までのポート)
 - － ポート番号- (例: 1- = 1 から 65535 までのポート)
 - － -ポート番号 (例: -1000 = 1 から 1000 までのポート)
 - － ポート番号, ポート番号, … (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降のポート)
- any
すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<dst_addr>/<mask>

TOS 値書き換え対象となる宛先 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
TOS 値書き換え対象となる宛先 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。
記述形式は、<src_addr>/<mask>と同様です。
- any
すべての宛先 IP アドレスを TOS 値書き換えるの対象とする場合に指定します。0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0)を指定するのと同じ意味になります。

<dst_port>

TOS 値書き換え対象となる宛先ポート番号を指定します。

- ポート番号
TOS 値書き換え対象となる宛先ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。
記述形式は、<src_port>と同様です。
- any
すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<protocol>

- プロトコル番号
TOS 値書き換え対象となるプロトコル番号を、0～255 の 10 進数値で指定します (例: ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。0 を指定した場合は、すべてのプロトコルを対象とします。

<tos>

- TOS 値
書き換え対象となる TOS 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。複数の TOS 値を指定する場合は、","(カンマ)で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「0-ff」のように"-"(ハイフン)を使用して指定します。
TOS 値は、","(カンマ)および"-"(ハイフン)を使用して 10 個まで指定できます。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - 00～ff の 16 進数値 (例: ff = ff の TOS 値)
 - TOS 値-TOS 値 (例: 32-64 = 32 から 64 までの TOS 値)
 - TOS 値- (例: 80- = 80 から ff までの TOS 値)
 - -TOS 値 (例: -7f = 0 から 7f までの TOS 値)
 - TOS 値,TOS 値,... (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降の TOS 値)
- any
すべての TOS 値を、TOS 値書き換えるの対象とする場合に指定します。

<new_tos>

- TOS 値
書き換える TOS 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。

[説明]

TOS 値書き換え条件を設定します。

条件に一致したパケットの TOS 値を、指定した TOS 値に書き換えます。TOS 値書き換え条件は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

TOS 値書き換えを行わないものとみなされます。

5.4.16 remote ip tos move (オプション)

[機能]

TOS 値書き換え条件の優先度の変更

[入力形式]

```
remote [<number>] ip tos move <count> <new_count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 対象 TOS 値書き換え定義番号
優先順序を変更する前の TOS 値書き換え定義番号を指定します。

<new_count>

- 移動先 TOS 値書き換え定義番号
<count>に対する新しい順序を、0～31 の 10 進数値で指定します。
既にこの定義番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

[説明]

TOS 値書き換え条件の優先度を変更します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

5.4.17 remote ip tos delete (オプション)

[機能]

TOS 値書き換え条件の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ip tos delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- TOS 値書き換え定義番号
削除する TOS 値書き換え定義番号を指定します。
- all
すべての TOS 値書き換え定義を削除する場合に指定します。

[説明]

TOS 値書き換え条件を削除します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

5.4.18 remote ip priority (オプション)

[機能]

帯域制御の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip priority <count> <src_addr> / <mask> <src_port> <dst_addr> / <mask>  
<dst_port> <protocol> <tos> <width>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 帯域制御定義番号
帯域制御定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

<src_addr> / <mask>

帯域制御の対象となる送信元 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- 送信元 IP アドレス / マスクビット数 (またはマスク値)
帯域制御の対象となる送信元 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - － IP アドレス / マスクビット数 (例: 192.168.1.1 / 24)
 - － IP アドレス / マスク値 (例: 192.168.1.1 / 255.255.255.0)
- any
すべての IP アドレスを帯域制御の対象とする場合に指定します。0.0.0.0 / 0 (0.0.0.0 / 0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<src_port>

帯域制御の対象となる送信元ポート番号を指定します。

- ポート番号
帯域制御の対象となる送信元ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。複数のポート番号を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「1000-1200」のように "-"(ハイフン) を使用して指定します。ポート番号は、","(カンマ) および "-"(ハイフン) を使用して、<src_port>、<dst_port> 合わせて 10 個まで指定できます。
以下に、有効な記述形式を示します。
 - － 1～65535 の 10 進数値 (例: 65535 = 65535 ポート)
 - － ポート番号-ポート番号 (例: 32-640 = 32 から 640 までのポート)
 - － ポート番号- (例: 1- = 1 から 65535 までのポート)
 - － -ポート番号 (例: -1000 = 1 から 1000 までのポート)
 - － ポート番号, ポート番号, … (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降のポート)
- any
すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<dst_addr>/<mask>

帯域制御の対象となる宛先 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- 宛先 IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
帯域制御の対象となる宛先 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。
記述形式は<src_addr>/<mask>と同様です。
- any
すべての IP アドレスを帯域制御の対象とする場合に指定します。0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<dst_port>

帯域制御の対象となる宛先ポート番号を指定します。

- ポート番号
帯域制御の対象となる宛先ポート番号を、1～65535 の 10 進数値で指定します。
記述形式は<src_port>と同様です。
- any
すべてのポート番号を対象とする場合に指定します。

<protocol>

- プロトコル番号
帯域制御の対象となるプロトコル番号を、0～255 の 10 進数値で指定します (例: ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。
0 を指定した場合は、すべてのプロトコルを対象とします。

<tos>

- TOS 値
帯域制御の対象となる TOS 値を、0～ff の 16 進数値で指定します。複数の TOS 値を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。また、範囲指定する場合は、「0-ff」のように "-"(ハイフン) を使用して指定します。
TOS 値は、","(カンマ) および "-"(ハイフン) を使用して 10 個まで指定できます。
以下に、有効な記述形式を示します。

- 00～ff の 16 進数値 (例: ff = ff の TOS 値)
- TOS 値-TOS 値 (例: 32-64 = 32 から 64 までの TOS 値)
- TOS 値- (例: 80- = 80 から ff までの TOS 値)
- -TOS 値 (例: -7f = 0 から 7f までの TOS 値)
- TOS 値,TOS 値,... (例: 10,20,30- = 10 と 20 と 30 以降の TOS 値)

- any
すべての TOS 値を、帯域制御の対象とする場合に指定します。

<width>

- 帯域
0～100 の 10 進数値で指定した場合、0 は非優先 (ベストエフォート)、100 は最優先、1～99 は同じ相手ネットワーク中の定義となり、それぞれ指定した値の比で帯域を割り当てます。例えば、同じ相手ネットワーク中の定義が 3 つあり、それぞれ<width>の値が 30、30、60 であった場合、帯域として 25%、25%、50% が割り当てられます。なお、1～99 を指定した定義のそれぞれの合計値が 100 未満の場合、残った帯域は定義に合致しないデータ用の帯域となります。

[説明]

帯域制御を設定します。任意のプロトコル、アドレス、ポート、TOS 値を指定して、割り当てる帯域を指定します。

帯域制御は、本装置全体で 32 個まで定義できます。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

IPv4 以外のパケットは、すべて非優先 (ベストエフォート) として扱われます。

[未設定時]

帯域制御を行わないものとみなされます。

5.4.19 remote ip priority delete (オプション)

[機能]

帯域制御の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] ip priority delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

削除する帯域制御を指定します。

- 削除する帯域制御定義番号
削除する帯域制御定義番号を指定します。
- all
すべての帯域制御を削除する場合に指定します。

[説明]

帯域制御を削除します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

5.4.20 remote ip msschange

[機能]

MSS 書き換えの設定

[入力形式]

remote [<number>] ip msschange <mss>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mss>

- MSS 値
MSS の書き換え値を、0 または 160～1460 の 10 進数値で指定します。
0 を指定した場合は、MSS を書き換えません。

[説明]

MSS 書き換え機能を利用する場合の、書き換え値を設定します。

[未設定時]

MSS 書き換え機能を利用しないものとみなされます。

```
remote <number> ip msschange 0
```

5.4.21 remote ip fragment sort

[機能]

フラグメント 順序変更の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] ip fragment sort <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号

相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

フラグメントされたパケットの順序が前後逆転して受信した場合に、順序変更をするかどうかを指定します。

- off

順序変更しません。

- on

順序変更します。

[説明]

本装置の NAT 機能では、フラグメントされたパケットの順序が前後逆転して受信した場合、そのパケットを破棄します。フラグメントされたパケットの順序が逆転しないように、あらかじめパケットを整列させる場合には、順序変更を行う設定にします。

[未設定時]

フラグメント 順序変更をしないものとみなされます。

```
remote <number> ip fragment sort off
```

5.5 ブリッジ関連情報

5.5.1 remote bridge use (オプション)

[機能]

ブリッジ機能の設定

[入力形式]

remote [<number>] bridge use <mode>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

ブリッジを使用するかどうかを指定します。

- on
ブリッジを使用する場合に指定します。
- off
ブリッジを使用しない場合に指定します。

[説明]

ブリッジを使用するかどうかを設定します。

ブリッジを使用する場合、IP のパケット以外をすべてブリッジします。

ただし、接続先との接続時に BCP のネゴシエーションを行い、ネゴシエーションが成功した場合にブリッジデータの送受信が可能となります。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

IP 以外のネットワークプロトコル (IPX など) をルーティングしているネットワークでブリッジを使用する場合は、ブリッジによって中継されることでネットワークがダウンすることがあります。ルーティングと併用する場合は、ルーティングによって転送するプロトコルをフィルタリングするよう設定してください。

[未設定時]

ブリッジを使用しないものとみなされます。

```
remote <number> bridge use off
```

5.5.2 remote bridge stp use (オプション)

[機能]

STP モード の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] bridge stp use <mode>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<mode>

- on
STP を使用する場合に指定します。
- off
STP を使用しない場合に指定します。

[説明]

スパニングツリーアルゴリズムで経路制御を行うかどうかを設定します。
本コマンドは、ブリッジを使用している場合にだけ有効です。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

STP を使用しないものとみなされます。

```
remote <number> bridge stp use off
```

5.5.3 remote bridge stp cost (オプション)

[機能]

パスコストの設定

[入力形式]

```
remote [<number>] bridge stp cost <path_cost>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<path_cost>

接続先と通信する場合のパスコストを指定します。

- auto
インタフェースの速度に応じて、パスコストが自動決定されます。
以下に、本パラメタ指定時のパスコストを示します。

回線種別	パスコスト
Ethernet (10Mbps)	100
HSD (64kbps)	15620
HSD (128kbps)	7810
FR (64kbps)	16000
FR (128kbps)	8500
ISDN (64kbps)	16000

- パスコスト
パスコストを、1～65535 の 10 進数値で指定します。値が小さいほど、優先度が高くなります。
通常は auto を指定してください。ただし、ブリッジネットワークを構築する上で、優先ブリッジ決定のために任意のパスコストを指定することができます。

[説明]

スパニングツリーアルゴリズムで使用するパスコストを設定します。
本コマンドは、STP を使用する場合にだけ有効です。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

パスコストを自動決定するとみなされます。

```
remote <number> bridge stp cost auto
```

5.5.4 remote bridge stp priority (オプション)

[機能]

インタフェース優先度の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] bridge stp priority <port_priority>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<port_priority>

- インタフェース優先度
インタフェースごとの優先度を、0～255 の 10 進数値で指定します。値が小さいほど、優先度が高くなります。

[説明]

スパンニングツリーアルゴリズムで使用する、インタフェースごとの優先度を設定します。通常、設定する必要はありません。

本コマンドは、STP を使用する場合にだけ有効です。

本コマンドを設定しない場合は、<number>で指定したインタフェースが優先となり、remote 定義で定義されたインタフェースが非優先となります。lan 定義内で定義されたインタフェースでは、定義番号の最も小さいものが優先されます。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

インタフェース優先度に 128 が設定されたものとみなされます。

```
remote <number> bridge stp priority 128
```

5.5.5 remote bridge filter (オプション)

[機能]

MAC フィルタの設定

[入力形式]

remote [<number>] bridge filter <count> <action> <src_mac> <dst_mac> <format> <value>

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- フィルタリング定義番号
フィルタリングの優先度を表す番号を、0～63 の 10 進数値で指定します。指定した値は、設定完了時に順方向にソートされリナンバリングされます。
指定した定義番号と同じ値を持つ定義が既に存在する場合は、既存の設定に対する修正とみなされます。指定した値を持つ定義が存在しない場合は、追加とみなされます。

<action>

フィルタリング対象に該当するパケットを透過するかどうかを指定します。

- pass
該当するパケットを透過します。
- reject
該当するパケットを遮断します。
- restrict
該当するパケットを、回線が接続されていれば透過し、切断されていれば遮断します。

<src_mac>

フィルタリング対象とする送信元 MAC アドレスを指定します。

- any
すべての MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- bcast
ブロードキャスト MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- mcast
マルチキャスト MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- 上記以外
対象とする MAC アドレスを指定します。フィルタリング対象とする送信元 MAC アドレスを、
xx:xx:xx:xx:xx:xx(xx は 2 桁の 16 進数値) の形式で指定します。

<dec_mac>

フィルタリング対象とする宛先 MAC アドレスを指定します。

- any
すべての MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- bcast
ブロードキャスト MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- mcast
マルチキャスト MAC アドレスを対象とする場合に指定します。
- 上記以外
対象とする MAC アドレスを指定します。フィルタリング対象とする送信元 MAC アドレスを、
xx:xx:xx:xx:xx:xx(xx は 2 桁の 16 進数値) の形式で指定します。

<format> <value>

- llc
<value>の値と LSAP が一致する LLC 形式パケットを対象とする場合に指定します。<value>には、0
～ffff の 16 進数値を指定します。
- ether
<value>の値とタイプが一致する Ethernet 形式パケットを対象とする場合に指定します。<value>に
は、5dd～ffff の 16 進数値を指定します。
- any
すべてのパケットを対象とする場合に指定します。<value>は、指定不要です。

[説明]

MAC フィルタを設定します。

本コマンドは、ブリッジ機能を使用する場合にだけ有効です。

指定した条件に一致するパケットを、指定した<action>に従って遮断または通過させます。

MAC フィルタは、本装置全体で 64 個まで定義できます。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

IP 以外のネットワークプロトコル (IPX など) をルーティングしているネットワークでブリッジを使用する場合は、ブリッジによって中継されることでネットワークがダウンすることがあります。ルーティングと併用する場合は、ルーティングによって転送するプロトコルをフィルタリングするよう設定してください。

[未設定時]

MAC フィルタを設定しないものとみなされ、すべてのパケットが透過します。

5.5.6 remote bridge filter move (オプション)

[機能]

MAC フィルタの優先順序の変更

[入力形式]

```
remote [<number>] bridge filter move <count> <new_count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- 対象フィルタリング定義番号
優先順序を変更する前のフィルタリング定義の番号を指定します。

<new_count>

- 移動先フィルタリング定義番号
<count>に対する新しい順序を、0～63 の 10 進数値で指定します。
既にこの定義番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

[説明]

MAC フィルタの優先順序を変更します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

5.5.7 remote bridge filter delete (オプション)

[機能]

MAC フィルタ情報の削除

[入力形式]

```
remote [<number>] bridge filter delete <count>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<count>

- フィルタリング定義番号
削除するフィルタリングの定義番号を指定します。
- all
すべてのフィルタリング情報を削除する場合に指定します。

[説明]

MAC フィルタ情報を削除します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

5.6 フレームリレー関連情報 (オプション)

5.6.1 remote fr dlci (オプション)

[機能]

フレームリレーにおける DLCI の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] fr dlci <dlci_number>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<dlci_number>

- DLCI
自局で使用する DLCI を、16～991 の 10 進数値で指定します。
なお、設定を削除する場合は、0 を指定します。

[説明]

フレームリレーにおける DLCI(データリンクコネクション識別子)を設定します。
フレームリレーを使用する場合は、本コマンドを必ず実行してください。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

DLCI を設定しないものとみなされます。

5.6.2 remote fr cir (オプション)

[機能]

フレームリレーにおける CIR の設定

[入力形式]

```
remote [<number>] fr cir <cir>
```

[パラメタ]

<number>

- 相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
省略した場合は、0 を指定したものとみなされます。

<cir>

- CIR 値
CIR 値を、0～アクセス速度/2 で指定します。

[説明]

フレームリレーにおける、DLCI ごとの CIR 値 (認定情報速度) を設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

CIR 値として 0 を指定したものとみなされます。

```
remote <number> fr cir 0
```

